

留学生の支援体制 情報交換

八戸

千葉の日本語学校、スリランカの機関 八学大短期大学部を訪問

千葉の日本語学校、スリランカの機関



短大の関係者と情報交換する川畑進校長(左)とゲティカ・プリヤダルシェニさん

千葉県の日本語学校「新富国際語学院」(川畑進校長)と、スリランカにある留学生送り出し機関の代表者が10日、八戸学院大短期大学部を

訪れた。外国人留学生の受け入れについて、介護福祉学科の教授らと情報交換した。川畑校長は、同大と南部町が留学生の支援体制を構築していることに着目し、「手厚いサポートで、留学生が安心して

勉強できる。情報交換を継続したい」と期待を寄せた。

同大と短期大学部は、2016年に南部町と連携協力協定を締結。町は介護福祉士を目指す留学生に住宅を無償で提供したり、日本語の学習を支援したりする体制を整えている。

川畑校長と、送り出し機関「WINKA GLOBAL INSTITUTE(ウィンカ・グローバル・インSTITUTE)」代表取締役のゲティカ・プリヤダルシェニさんが訪問。同科の赤羽卓朗学科長らが、留学生への支援内容や学科の特色を説明した後、学校の設備を見学した。

ゲティカさんは取材に、「(学校は)静かな環境で、勉強するにはすごく良い。スリランカの学生にとってチャンスになる」と評価。川畑校長は「今後も定期的に、現地と日本語学校、短大で話し合う場を設けたい。短大入学前に必要な教育についても教えてもらえたら」と話した。

(里村静)